

平成26年度 第3回社会教育委員会議 会議録

日 時 平成27年2月20日(金) 15:30～
場 所 市役所 分庁舎4階 教育委員会室
出席委員 9名

1 開会

2 議長あいさつ

3 前回会議内容の確認

・別紙参照

4 協議事項

(1) 明石の子どもの学力等の現状について

・平成27年2月1日号の広報あかしの記事より、明石の子どもの学力の現状や学力向上に向けての取り組みについて説明

(2) 各委員の意見

(議長)

明石市の広報を見せてもらった時にいいデータがでていたと分かりましたし、我々が今議論していることと非常に関係があることだと思いました。家庭の躰、家庭の環境というのは、一側面だとは思いますが、子どもの学力に影響を与えているというのが良く分かりました。パンフレットを作るだけでなく、機会をたくさん設定する事であるとか、学校を巻き込むとはどういう事であるとかということ、継続性というキーワードが前回も出ていましたが、そういう事も含めて、これから各委員に意見をお伺いします。

(委員)

最近特に思う事は、PTAの役員がコミセンへ来られて色々討議しています。指示を受けてやるのではなく自分たちで何かを進めようという意識があった中で加工されようとしています。過去提言されているものを自分たちのものとして2次加工したものを広げていく方がより近い内容になるのではないかと思います。

(議長)

広報紙でうまく説明していただくと、それが明石市の実態だということで広がっていくことだと思います。それと同じで我々の作った提言もただ単に文章だけを渡しても誰も読まないと思いますが、図やパンフやチラシになっていくとまた変わっていくことになるのではないのでしょうか。今関心しているのは今年の明石の中学3年生の学力がすごく上がっているということで、先生方も相当力を入れられたのかと思いました。平成19年から比べると、ここ6、7年の間にぐんぐん上がっているんだなということもわかりました。当然、これまで言われていた

とおりに規則正しい生活をした子は学力がいい、宿題をする子、本を読む子は学力が高いということです。今回新たにスマートフォンという携帯を使っている子ほど学力が低いという結果が出たのではないかと思います。いいデータなのでこういうものを基にして、この前の8つの約束を出した時のような資料集にはもってこいだなと思いました。

(委員)

データを疑うのではないのですが、読書を1日2時間もする時間があるのでしょうか。親は、働いていてかなり忙しい中で、見届けることができるのでしょうか。学童などを利用してその時間を当ててというのはあると思いますが、家庭に帰ったときに2時間というのはどうかと思います。昔、バイクの3無運動をやっていました。買わない、取らせないとか、でも乗る人は乗るもので、スマートフォンだってポケットに入れてあります。表向きと実態とはかなりギャップがあるのではないかと思います。

(議長)

読書の好きな子は2時間やっているんじゃないかなとは思いますが。数は少ないと思うが、何冊読みましたかと競争させているような学校もあります。2時間読んでいる児童・生徒は少ないと思います。

(委員)

孫を見ていると、宿題の読書感想文を書くのに精いっぱい、その時は本を読んでいます。それ以外は読んでいないように思います。興味がある方に行けばいいのですが、アウトドアの方に行っています。

(副議長)

2時間以上読んでいる人数や割合を出すと低いと思いますね。

(委員)

確認しておきたいことですが、今日はテーマの策定ということですね。テーマで家庭教育の向上というのが中心なこと、目的は何かということです。抽象的な意味での健やかな子どもなのか、もっと具体的に学力を上げることなのか、どちらかという結果として学力があがるだろうが学力を上げるのは目的でないだろうと言えると思います。もう一つは、手段としてここでやろうとしていることはパンフを作ろうということなのか、それとも、家庭教育をサポートする仕組みなのかということがわからないので確認しておきたいと思います。おそらく、結果として学力があがるのであって目的ではないと思います。

(議長)

学力があがるというのは結果としていいことだけど、それまでの家庭生活がしっかりできるような家族をつくりたい、育てたいということを目指すというのが方向性として示したいということで、決して結果としての学力ではないと思います。皆さんよろしいですね。

家庭の教育力が落ちているという議論があったと思うのですが、それを高めるためにどのようなテーマを決めたらいいのか、どういう手段があるのか、という議論をしたと思います。そういう方向だと捉えてください。

(委員)

社会教育委員は初めてです。今までこの会の経緯をご存じて、経験のある委員さんと考え方

のベースが違うなあと思っています。その一つが一回目の発言のところから引っかかっています。例えばはじめの課題がありますよと、そういうことがないような状況を作るために社会教育全体の中で、このようなことに気をつけたりしながら私たちはいきましょう、というのか、と一回目の時に質問させていただいたのですが、軍人だった山本五十六さんが、部下を育てるには「やって見せ、言いかせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かず」と言っていますが、このことは子どもを育てる大切な視点です。子どもの課題というのはいじめであろうがなんであろうが実は親の課題だと思っています。親自身がしっかり生きることによって自分の背中で子どもを育てるとするのは家庭の最も大事な要素だと思います。児童生徒支援課で状況を聞くといじめの問題だとかいろいろな相談があるのですが、親の子どもへの接し方とか躰の仕方とかの相談が非常に多いという状況を聞きます。親自身が今どうしていいのかわからない、どう触れ合ったらいいかわからない、こんな時にはどうしたらいいかわからない。つまり親の力こそより高めていくような方向が大事なのかなと思ったりします。前回、神戸市などの例を引かれ、具体的なテーマでこういう取り組みがありますと、このことはとっても素晴らしいですね、と話されました。そのような取り組みにつなげながらいったらいいのかなと思いつつ、さっきから家庭の教育力というのが、もちろん子どもの課題を解決するためにするのだけれど親が子どもに直接こういうことをしなさい、挨拶しなさいということを、この回で伝えていくのか、そうではなく、「親自身が挨拶できる人間になりましょう」とそうすることが今の子どもたちの課題を変えていく力になりますよというように、どちらの方向で考えたらいいのか自分自身で整理できていません。テーマを検討するうえでそのところをもう少し明確にしていただいたら考えやすいかなと思います。

(議長)

子ども向けのチラシのようなものを作って、早寝早起きをしましょうというのは具体的なものであって、我々は明石の各家庭のあり方だとかを論的に述べていく方向でまとめていくものかなと思っています。親が変わらないといけないと思っていますし、大人が変わらないといけないと思っています。しかし、出てくる文言は時には子ども向けの言葉があってもいいのではないかということです。前回「やわらかい言葉で」とか「受け入れやすい言葉でテーマを決めた方がいいですね」と言う発言の中には、決して文章ばかり、漢字ばかりが流れるようなものでなく身近なものとして捉えていけば、浸透力があるんじゃないかということであったと思います。対象としては「明石の家庭を見ようではないか」、「家庭の教育力を見よう」と、いうことは言わせていただいたのですが、だからといって家庭の教育力の強化ということだけを出すのではなく他の方法もあると思います。大人向けか子ども向けかと言うと、ある面大人向けであるけれど、わかりやすくするために、ときには子どものためのチラシが必要であろうとは思いますが。文章にまとめる段階ではそういうことになると思います。テーマはやわらかくとかどうなのかとかでしていただいていいかなと思います。あくまでもチラシを作るだけのパンフを作るだけの学力を高めるための目的はこうしようという手段は協議しますが、我々がどういう項目をたてるのかということをお考えすることを考えないといけません。

(委員)

社会教育委員は初めてでよくわからないところがあるのですが、行政でパンフを作るのはわ

かるのですが、今、家庭環境が激変しているわけです。だから、学童が右肩上がりです。こういう中で、パンフレットと言うのはもちろん大事であるけれど、家庭環境の低下を補うような仕組みのようなものを作るところまで行政として考えるのか、そこまでは予算化が難しいのでさし当りパンフレットを作って啓発活動をするところまでやるのか、そこがわかりません。行政として、子育て支援というのをいろいろなところでやっているけれど家庭の教育力の低下に対応した子育て支援の試みというところまで考えるのか、そこまでは踏み込まずにさし当り現状に対応してパンフレットを作るところまでやるのかどちらでしょう。

(事務局)

家庭環境の低下と言うところで、幼児期の対応として子育て支援というところで福祉の中でいろいろな施策がされています。かたや貧困対策と言うことで格差が出てきている中で給付にするか貸与にするかいろいろな貧困対策があるかと思います。最終的に手段としてパンフレットを提供するという部分だけではなくて、施策として実現するかどうかは別ですが、具体策まで議論が発展すればいいのかなと考えています。ただ単にパンフレットを作ったら終わりというのではなく、活用の仕方を含めた中でどういう仕組みづくりが必要かというところを提言内容として盛り込めたらと思っています。

(委員)

わかりました。子育て支援とかいう大きなテーマを扱っています。明石市全体としてやるべきことであって、青少年教育課ではやれることとやれないことがある。青少年教育課ではやれないけれども提言には盛り込むということですね。

(事務局)

そうですね。最終教育委員会の方に提言いたしますので、そこで議論していただく中で当然教育委員会か市長部局かになります。

(委員)

わかりました。

(議長)

言い方は悪いのですが、たかが3回か4回集まって我々のやれることはちょっと小さいかなとは思いますが。社会教育委員会はもっと大きなものをやらないといけないのはよくわかっているのです。明石市の方向性まで決められるようなものまで本来なら持っていきたいのですがそこまではちょっと無理じゃないかなとは思っています。

(委員)

そうですね、数回の会議だけで実際に望まれるようなところまで持っていくのは難しいかと思われま。基本的には、行政スタッフとして教育委員会の生涯学習関係だけではなく学校教育を含めての施策に対する様々なことができますと思います。ただ、やり方として、前回提言したのは具体的なことを数回の会議で出来なければ別のセクションでも必要かなということです。具体的にやろうと思えばそうしないと無理だと思います。作業部会なりで具体的なことをやっていった方がいいかなと思います。

(議長)

仮想ですけど、こういう方向性が出た、家庭への啓発をしたい、そのためにはチラシが必

要だと、ではどのようなチラシが必要かと社会教育委員会でこういうことでやってくださいね
ということも言っているけれども具体的にそれをやるのは何名かの社会教育委員が出てきて関係者と
ともに作るというように具体物を作るには、ワーキング的なものが必要かなと思います。ただ
我々は、高い位置から「鳥瞰的な見方をする」、「俯瞰的な見方をする」というのが社会教育委
員会議の方向性であると思っています。具体的なものも大事なのですが、全体的な明石市の教
育をどう見るかという立場で最終的にはまとめていきたい。啓発するためのパンフレットを市
民に配布したということは具体物だという捉え方で、ここでは皆さん方をお願いしたいのは「こ
ういう方向の明石市の教育をしましょう」「就学前教育はこうあるべきではないか」ということ
をどんどん言っていただいてそれが出てくるのかなと思います。

(委員)

テーマ的に家庭教育の支援ということであれば、行政スタッフとして市役所全体の様々なセ
クションが行っている家庭教育施策につながる施策なり提言なりをこの場で検討するというこ
とが必要だと思います。いろんなことをいろんなセクションが取り組んでいます。矛盾はない
と思うのですが、同じようなことをやっていたり対抗意識みたいにやっていたりとかあると思
います。そういうのを家庭の支援というキーワードでまとめてみて、それを整理するという作
業を社会教育委員会議でやってもいいかなと思います。どの程度、どのくらいやっているのか
というのが見えてこない、何が必要であるかわからないと思います。

(副議長)

我々はこうしたらいという意見がなかなか出にくいので、そういうのを検証しながらとい
う作業も一つの知識になっていくかもしれない。

(委員)

結構あるのではないかと考えているのです、大きなテーマである家庭教育の支援にかかわる
施策は。市行政としてやっているのはどれくらいあるのか共通認識として持つことも大事です
し、そのことの是非を問うことも必要で、もしかしたら時代遅れのことをやっているかもしれ
ないし、あるいは、一回予算が付いたらずっとやり続け、ほんとに必要かどうかを問わずに予
算の獲得に行く傾向があるかと思っています。

(議長)

本を読ませましょう、というようなことをやっているところがあるのを聞いていますし、いろ
んな取り組みをやっています。子どもとか家庭支援もあるだろうし、そういうことをまとめて
表にして市民に知らせることも大事なこともかもしれません。今言われたように我々でチェッ
クしてここは重なっているからこういうところは連携したらどうでしょうか、という提言もでき
るだろうし、ここは時代とともに軽減すべきで、ここはもっと重視すべきだとかという意見を
述べるのも社会教育委員会としては意義があるのかと思います。ぜひそういう明石市全体で取
り組んでいる子育て支援、家庭教育支援というものをまとめ上げたものをデータ化して、それ
を分析的に我々が発言していくということですね。

(委員)

賛成です。テーマを考えるとときにあるテーマに関してはできるだけ多くの資料を集め読み込
みながらちょっと新しいことを考えます。テーマを考えるとときに明石市の家庭教育にかかわる

資料を作成し、もう一つは福祉にかかわることで、国の施策にある部分、兵庫県のものを用いたベースにしたうえで考える方が生産的ではないかと思えます。

(議長)

今までこういう論点はなかったですね。現実を見て現実からあるテーマを作りだしていただきました。今の話は、全体を見て決めましょうかという方向にしているのですがどうでしょう。

(委員)

子ども会活動の中でいつも子どもの健全育成、子どもの健やかな成長というのを願いながら活動しているのですが、家庭教育は基本だということはよくわかっています。それには本当に生き生きとした地域づくりとか、地域活動をしている中では生き生きとした地域であるべきだと思っています。長きにわたって、子ども会や自治会の活動をさせていただいているのですが、子ども会の活動は最も身近で親しみやすい活動なのです。今まで長い間地域コミュニティづくりに大きな役割を果たしてきたと思えます。立派に活動してきた組織が衰退してきているんですね。もう役目が終わったような感覚を持たれている所もありますし、これらの活性化とか充実を図っていかないとはいけません。それがずっと家庭教育にも影響してきますので、そのためには次代を担うコミュニティづくりとか、人材教育、人材育成が必要だと思います。それには、高校生とか大学生とか子どもに近い世代の指導者やボランティアがもっと出てきてもらってそういう活動ができればなあ、組織ができればなあと思えます。そういうことの情報提供や体制作りというのも必要だと思いますし、それが地域の家庭の教育力を高めるのではないかなと思えます。

(議長)

我々が今相談していることの具体的、最終的にはそういうことを求めているのだと思えます。あくまでも我々は絵に描いた餅を議論しているとは思いますが、以前出てきたチラシがあったりとかパンフレットがあったりとか、今言われたような形としてあらわれてくると思うので、まずは「その絵をかいてみましょう」と言うのが我々の方向性かなと思えます。その絵は何かというと、今までの明石市の家庭教育というもののあり方を分析的に物事を捉えてみましょうという一つの方向かなと思えます。

(委員)

その際、文部科学省の家庭教育支援の推進に関する検討委員会が平成24年3月にまとめたものがあるのですが、それをうけて明石市の現状を書きだしていくというのが一つの作業としては具体的な方法論になると思う。生涯学習社会教育行政必携には全文載っていますが、文部科学省のホームページからダウンロードできるようになっていますので教育委員会の方でしていただけたらと思えます。

(議長)

出たのはいつですか。

(委員)

出たのは、平成24年3月に家庭教育支援の推進に関する検討委員会が、「つながり創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して」と言う家庭教育支援を具体的な行政スタッフが出しています。これは国が出したものですが、それを受けて明石市版を作っていく

というのを念頭に置きながらここに書かれていることを少し書き出してみるのが必要じゃないですか。

(議長)

ひとつのまとまったものがあるのでそれを利用して明石版を作り、明石市の施策にどうかかわっているかを分析的に持って行ったらいいということですか。

(委員)

具体的に制度上だからすでに明石でやっていることもあったり、あるいは地域実状的にあわないこともあったりするだろうと思います。そのへんのところで具体的な作業をやっていたらいいのではないのでしょうか。とりあえずはこの部分をダウンロードしていただいて、資料として作って、そこの横側に明石の現状を書けるようなスペースのある資料を作っていただければいいのかなと思います。

(議長)

各部局でやっているような内容とどうかかわっているかということだと思います。文科省の方向性なり明石市の方向性なり、兵庫県もそうだと思いますが、いろいろな方向性が出ているのはある面追随しましょう、我々はそれに乗っていきましょうということです。しかし、明石市だからこういうことをやっていますよということに対する独特のもの、ある面この地域しかわからない言葉とか出てきていいと思いますので、今委員から出てきた子どものサークル活動の衰退だとか、子ども会の以前との違いだとかも捉えながら現実から生まれてくる文言でまとめ上げられたらいいかなと思います。

今の議論の中で感じられたことで結構ですので、何かありましたら。

(委員)

社会教育という言葉聞いていても中身はどうなのかというのがよくわからないまま3回目です。学校教育より大きいのが社会教育なのかなと思っています。幼稚園教育は一番家庭教育からすぐ近い学校教育にやってくる年齢の子たちを扱うところなので、家庭教育力の低下であるとかを感じていて、私たちが作る指導のカリキュラムの中にも保護者との連携だとか地域に開かれた幼稚園とかもかかせないような現状になっています。昔ながらの幼稚園のように子どもだけを育てているのではとてもやっていけないような現状がここ何十年とあります。ですので、家庭教育力の大切さというのがあって、何とかしたいと思います。自園に来ている保護者には対応出来るのですが、手紙を見せても見てほしい人は見ていない、正しい躰の正しいをどう捉えているのかわかりません。子どもの様子から、保護者のことがわかりこちらから援助できたりして、子どもがだんだん変わっていくことがあります。これは本当に少しのことです、家庭の教育力は大切なことですが、それをどう浸透させるかです。幼稚園の場合、明石市には「先端的な役割を担う」とありますが、何を担っているのかなと思ったら、子育て支援課の活動の子育て学習システムというのがあるのですが、それは場所提供位なものでそれでいいのかなと思います。子育てに悩んでいるお母さんにどう引き出していくのであろうかと思えます。2年前に市長部局に変わったときにも、初めて知ったことですが、明石市にも幼稚園に来ないで、在宅のまま学校に行く子どもがいる現状があります。このあたりのことも見えていませんでした。初めてのところに行っているいろいろなことがわかります。

(議長)

幼稚園では、園庭解放とかされながら、保護者が来て子どもと一緒に見ていてその中で、いろいろ教育されているんだと思いますけど、以前園長さんが親の価値観が違うので、何が正しいのか言いにくくなっていくということをおっしゃっていました。

(委員)

一年間の流れがよくわからなくて、前回は提言の確認のような形だったのですが、今回はテーマを策定と言うことですが、あと何回でどこまでするのかと言うのを教えてほしい。

(事務局)

来年度は5回位を予定しております。その5回の中で、最終提言書のまとめ位までいきたい。委員の任期が2年間ありますので最終が28年の7月末ぐらいまでありますので、最後の年度のところで、教育委員会の提言を考えています。初めはもう少し早い段階でと考えていたのですが提言する時期によってうまく次の予算や施策につなげていけるのではないかと思います。今のところは27年度は5回位で、28年度の初め位で教育委員会への提言というイメージです。

(委員)

実際に社会教育委員会で、具体的な形で動くところが必要かと思えます。今まではパンフレットなり提言書を出すといったところで、出したけれど結果的には、見ていただいた、読んでいただいたという形で終わっています。前回は、実際に成人式に参加している人に積極的に参加していくようなことが必要だというような話が出ています。今まではお母さんが働かずに家にいて子どものことをみていたのですが、今は共働きになってしまっているので、子ども自身も価値観が変わってきています。今回、子供の学力があがってきたというのも高校の学区編成が大きく変わってきたので子ども自身もやらないといけないということで頑張ったと思えます。明石の子どもたちの学力を上げないといけない、落ちこぼれてしまうと、子どもが行く学校がなくなってしまう、そういうところも含めて、テーマの中で言われている家庭教育支援と言うのはいいと思えます。

(委員)

音楽の授業を見てきたのですが、グループに分かれて手拍子や足拍子で取り組んできたことを発表するのを見て、昔と違った勉強をしているんだなと思いました。

(議長)

そういう立場で思っていることをドンドン話してください。大体発言していただきましたので、まとめていきたいと思えます。今日の段階で、方向性としてはそれぞれ持っている立場からの発言をドンドンしていくものの、委員会のテーマとしては、家庭の教育という方向になりつつあります。そのために派生してくる規則正しい生活をどうさせるだのどういう子どもを育てるとか、具体的なことを発言していけばいいのかと思えます。方法手段としては、明石の施策、文科省からだされたものから具体的に、分析的に作っていききたいと思えます。ドンドン発言していただく中で、いろんなことが書けていける。前回出てきた具体物をもっと作りましょう、称賛しましょうといっているのですが、神戸市の例などを聞いて明石でもやってみたいとおもっている。方法論としてはやってみたいと思えました。そして見届けるまで行かなければ

だめで、具体的な動きが必要ではないか、この委員会でどこまでできるかわからないけれどやってみたいと思いました。

(委員)

今ので大体まとまってきたと思うのですが、家庭教育の支援と言うことで、事務局が資料を作ってくれるわけですが、きちんとどういう内容の資料を集めるかと言うのは、どういう目標に向かってこの委員会が進んでいくのかと連動しています。目標としては家庭教育の支援と言うことで、そこを、今日確定したらいいんではないかと思います。ある種の目標があってその資料を用意していただく、あとは現場の皆さんの方で施策としてはこういうものがあるけれど、現場の感覚としてはこれはもうちょっと変えた方がいいとか、行政がやられていることをそれが正しいからこうゆうふうに進めようという話ではないと思う。

(議長)

啓発的な習慣づけでこうしましょうというようなものと、こういう現実があるのでそれをサポートするような支援活動をやりましょうという両面でやるべきだということですね。

(委員)

地域でサポートするということまでいかないと、やりたくてもやれないという家庭が増えているのではないかと思います。

(議長)

聞いてほしい人がパンフレットを読まない。啓発でチラシを作ってはダメではないかと言うことですね。一方啓発として習慣づけはこうしましょうという指針は示してもいいじゃないかと言うことは言っています。21年に作ったものは一つの方向性を示しただけであって何枚配ったからいいだとか読んでくれたからいいだとかではありません。もっともっとサポートする、読まない家庭はどのような方向付けで、地域ではどうあるべきかまでも提言していったらどうでしょうということですね。

(委員)

一つの方向性を示していただいたうえで、その中で自分が経験したことや今の疑問点などをだしながら中身の一部にしていくのはよくわかりました。いいことだと思います。

(議長)

そのために企業の方や幼稚園の方などいろんな立場で社会教育について言っていたらいいということです。家庭教育の支援というのは目標があくまでも明石市の家庭がそれぞれ教育力を持って健やかな子どもを育て、学力のある子どもを育てたいんだという大きな未来を拓くという方向で行くというねらいはあるんだけど、家庭教育の支援とは何かといえば、一種の習慣づけの目安をしっかりと定めていくことが必要です。もう一つは、現実的にいろんな問題があって、対応が望まれる家庭があるではないか、それに対応するサポート的なことはどうすべきだとかどういう施策をとればいいのかということも含め家庭の教育の支援と言うのを二つの側面からしたらどうかということです。

(事務局)

文科省からのものもありますが、市のものとして教育委員会や市長部局の中でもいろいろな子育て支援策というのがあります。幼稚園、保育所、生まれる前の妊娠時からのサポートの施

策もありますので、次回まで資料をつくり、できるだけ事前に見ていただけるようにしたいと思います。そのうえで、次回に様々な意見をいただき習慣づけというところで前回は八つの分を出していただいていますので、そのパンフレットをもう少し充実させたものにするとか、ちょっと変えて新しいものを付け加えるなどをしていただきたい。サポート的なことで、家ではしなくてもできないという家庭があると思います。土曜日など放課後を活用した地域の方による勉強の機会もありますし、勉強だけではなくスポーツを通じた異なる年齢の子ども会活動とかいろいろなところがあります。前回の平成21年は地域ということは提言に盛り込んでいただいておりますのでそこをもう少し充実させていただきたいと思います。まだ3年しか経っていませんが社会情勢も変化していますので、状況を踏まえた中で次回から議論をしていただければと思います。

(議長)

ちょっと厚かましいかもわかりませんが、優秀な方を讃えるようなことはできないでしょうか。早めに言っておきたいのは、きっと予算化することがあるので、出していただくためには、骨子が決まっていなくてこんなことを言うてはいけないかなと思いつつ、励ますようなことをどんどんやりましょうよと言っていましたし、神戸市のやり方を聞いてこれは明石でも取り入れたいなということを思っている。施策として一つの提言をしていただくよう予算化していただくと、早めに決めないといけないのでつぎの会までにこういうことありますよと家庭の支援のこういう優秀なことをやっていますよという書類を出してもらってそれを表彰するだとかいい方法があればと思います。

(委員)

それは、個人にですか。

(議長)

別に個人でも団体でもいいんですが、助け合っているようなお母さんグループだとか、幼稚園での園庭での集まりだとか、野球チームの何々だとか、いろんなどころから出てきてこれは与えるべきだと早いかもしれませんが3回目くらいで言わせていただいて実現すればいいかなと思います。それと、我々のまとめていくテーマとうまく連動すればいいかなと思いますので、ぜひ実現させていただきたいと思います。

(事務局)

先ほどの家庭ではできないところを地域でのサポートとかということもありましたので、いろいろな形でサポートされている、地域団体だとか、スポーツ団体とかもあると思います。各市でもどういう形での表彰制度があるかなど情報収集してみます。

(議長)

今までとは違う方向で社会教育委員を何回かやってきて提言したのですが、今回はそういうことも進めたいと思っています。

(副議長)

神戸市では、賞の名前が立派ですね。

(委員)

「神戸の未来を担う子ども子育て賞」ですが、それをもらったところがグループ、団体とし

て張り切っているということを聞きます。

(議長)

今日の議論では、どういう方向に進むだとか、どれくらいのスパンでやっていくんだとかの質問があり、方向性が定まってきましたし、何を指針にするかと言うことも教えていただいたし、今のような具体物は最後言っていただいた具体的な動きとして誇れるものになるのではないかと思います。讀えるようなことをやればいいのかと思います。

(委員)

1年半と言うスパンの中思索的なものを具体化して突っ込んでいくのもひとつかもしれないですね

(議長)

全体像が固まらなくてもいいからまずやってみるということですね。表彰にはつながらないかもしれませんがまずはやってみたい、神戸市のハウツーを利用して明石版を作りたいと思います。

5 事務局より今後の予定について説明

(事務局)

今回の議事録については、作成し次第、委員の皆様へ送付します。来年度は5回程度開催を予定しています。次回の予定は、5月下旬をめどに第4回社会教育委員会議を予定しています。後日、委員の皆様にご都合等をお伺いし、日程を決定します。